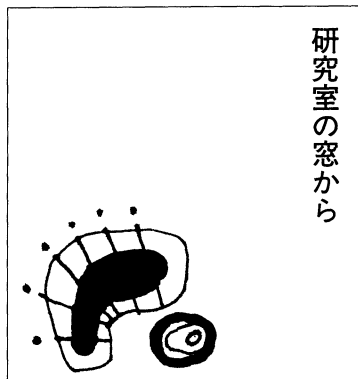


## 研究室の窓から



### LD(学習障害)児と 教育研究

田中 良三

一九九二年四月十二日、名古屋市公会堂を会場に見晴台学園三回目の入学式が行われた。十三人の新入生に学園長の私は語りかけた。

「この学園は、みんなのなかに隠された宝物を友だちを一ぱいつくり、楽しく勉強しながら見出していく所である。ちつぽけだけど、お父さんお母さんの手で

作られてきているりっぱな学校である。生徒だけでなく、親も先生もみんなが育ちあい、高めあつて日本一の高校にしていこう。そして、この学園に来て本当に良かったと胸をはつて言えるようにみんなで頑張っていこう。」

在校生の二人の代表がそれぞれ歓迎の言葉を述べた。

「この学園はみんなが根っから明るく生き生きとしています。小・中学校でいじめにあつたこともあると思いますが、ここではいじめはありません。勉強ができなくても大丈夫。自信をもつて頑張つて下さい。みんなで仲良く一緒に勉強したり遊んだりしていきましょう。」

見晴台学園は、愛知県の高校入試政策の矛盾を重く背負わされた何処にも行きの場のない子どもたちのために三年前、学習障害児親の会「かたつむり」を母体に、「学習障害児の高校教育をもとめる会」が設置した日本で初めてのLD(学習障害)児のための私設の五年制の「高校」

である。現在、専任教員六名、非常勤八名の計十四名の教職員構成である。

私は、一九九〇年を「LD(学習障害)元年」と言っている。それは、愛知県親の会が中心になつて「全国親の会」が結成されたこと。名古屋では親が中心となり教育実践の場、見晴台学園を開いたこと。また、全国障害者問題研究会の全国大会に特別分科会「学習障害児と教育」が設置されるなど、この年、わが国でLD(学習障害)問題が一举に社会問題化したからである。そして、このような国民的関心の高まりに押され、一九九一年七月、国・文部省はLD(学習障害)児の存在について初めて公的に認知した。

ところで、学習障害(児)と私との出会いは五年前に遡る。親の人たちが私の研究室を訪ねてみえたことがきっかけである。中学卒業後の高校進学や進路保障について聞きたいということだった。私もいつのまにか障害を、制度化された枠

組みの中でしか考えなくなっていたのだらう、LDは私には直接関わりない問題だと看過していた。しかし、そのような親と子どもを目の前にし、関わりあううちに、結局のところ、この子たちも発達と学習の権利保障を切実に望んでいるのだということに気付いたのだ。その年（一九八七年）七月、私は親たちと一緒に「学習障害児を伸ばす教育をもとめて」と題する講演とシンポジウムに取り組んだ。このようなわけで、私にとってLD（学習障害）問題は、親や子どもへの悩み・願いにふれ、付きあいをしているうちにいつのまにか私の実践的、研究的課題として今日大きなウエイトを占めるようになっていたということである。

□ □

LD（学習障害）について、今日、大きな問題点の一つに、その概念や定義をめぐめる問題がある。

LDは、精神遅滞、自閉症、脳性まひといった他の発達障害や学業遅進児など

との関連という点で従来の障害と非障害との境界域に位置し、多様な姿を示すので、「曖昧さ」を免れないがゆえに、LDの臨床像を明確に描ききれないという問題である。しかし、アメリカではすでに一九七五年の「全障害児教育法」以来、教育政策として取り組まれてきている。

わが国では、LDの概念や定義については、アメリカ精神医学会が出した『精神障害の分類と診断の手引き』（DSM—III—R）などを大きな拠り所としている。

それでは、LDの概念や定義をめぐめる問題は、今日のわが国で実際にどのような問題として現われているのだろうか。

それは、まず、難しい大量の内容を新幹線なみのスピードで通過しなければならぬという学習指導要領の法的拘束性の一層の強化のもとで、「できるがわからない」といった矛盾を内包しつつ、「できる子——できない子」の分断を図

り、「落ちこぼれ」を常態化している今の教育体制の中で、LD児を含みながら

発達と学習上、何らかの困難を抱える子ども・青年すべてに関わる問題として立ち現われているという深刻な事実である。

さらにまた、これまでに明らかにされているLD児像は外国の紹介や医学・心理学による臨床研究によるものであり、わが国の日常の子育て、保育、教育の実践を通して示されている姿ではないということである。したがって、これからはむしろ、子育て、保育・教育実践をくぐりぬけた積極的人間像として把握され、打ち出されていかねばならない。

この四月、私たちはこの間の学園づくりをふりかえり、これから向かって『みちを拓く——見晴台学園開校と二年間の歩み——』と題する本を自主出版した。（愛知県立大学）